

家庭環境と子どもの自己肯定感

ー親ガチャに左右される子どもたちの現状と支援ー

佐々木莉奈

本稿は、家庭環境が子どもの自己肯定感にどのように影響するのか、そして、起こりうる問題について、新宿・歌舞伎町周辺に集まる「トー横キッズ」や支援団体の事例から研究したものである。

この研究をするにあたって、興味を持ったのは、筆者が高校生の頃である。周囲の同級生たちの中には、親が子どもに依存したり、家庭内の不和が日常化したりしているケースが多く、子どもたちは精神的に不安定な状況に置かれることがあった。この高校時代の経験から、家庭環境が子どもの自己肯定感や行動に大きく影響を与えることに問題意識を抱いた。

本研究では、家庭環境が子どもの自己肯定感に及ぼす影響を明らかにするため、先行研究やインタビュー調査を通じて現状を分析した。

第1章は、自己肯定感について非行と家庭環境の観点から先行研究を整理した。これまでの研究で、非行少年の改善には自己肯定感が必要であり、安定した家庭環境が子どもの成長における重要な要素であることが示唆されている。一方で、経済的要因よりも、学校や友人関係といった他者とのつながりが自己肯定感に大きな影響を及ぼすとし、子どもが学校や家庭で居場所を見つけることの重要性も指摘されている。

第2章で取り上げた、新宿歌舞伎町周辺で集まる「トー横キッズ」の存在は、家庭に居場所がないことや自己肯定感の低下が非行や犯罪に繋がることを象徴している。このような若者たちは、他者からの承認を求める中で、トー横という場に居場所を見出し、犯罪や薬物使用といった問題に巻き込まれていく傾向があることが分析された。

第3章では、支援団体の方と利用者インタビュー調査を行った。コロナ禍での外出制限や営業時間短縮により、未成年が家庭以外で過ごせる場所が限られた環境下で、家庭が不安定な子どもたちの精神的な負担を目の当たりにした。

また、家庭や学校に居場所を持たない子どもたちが、外部での居場所を求めた結果、犯罪や精神的被害に巻き込まれる現状が浮き彫りになった。

また、支援団体では子どもたちの話を聞くことが支援の第一歩とされており、SNSを活用した情報拡散や支援のハードルを下げる取り組みの重要性が指摘されている。

第4章では、未成年にとって安全で安心できる居場所が不足している現状が課題であることが明らかになった。また、支援団体の活動は一定の効果を上げているものの、継続的な支援には資金や地域社会の協力が不可欠である。特に、家庭に問題を抱えた未成年が抱える困難は、社会全体での理解と支援を必要としている。例えば、売春に追い込まれる少女たちは、承認欲求を満たす手段としてその道を選んでしまうことがあり、その背景には家庭環境

の問題や社会的な支援に課題が残ることが明らかになった。

筆者は、自己肯定感の低下が子どもの非行や犯罪に繋がるだけでなく、社会全体の問題として捉える必要があると考え、家庭環境の改善や未成年を保護するための包括的な支援策の確立が必要であることが明らかになった。